

うきは市グリーン栽培検討協議会（福岡県うきは市）

R4補正
R5当初

93

背景・課題

果樹栽培の施肥の量は、各農業者の経験と勘により行われていることが多く、窒素成分、リン成分、カリ成分など圃場によっては過剰に施肥されている状況がある。

目指すグリーンな栽培体系

化成肥料・化石燃料から有機質資材・クリーンエネルギーへの転換、温室効果ガスの低減に繋がる取組として植物の生態、土壌分析に基づいた施肥設計を学んでもらうことで過剰な肥料の投与を減らし、土づくりを中心とした減化学肥料の取組を推進する。

取組の内容

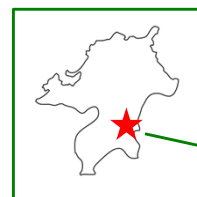
生産

果樹（かき、ぶどう、日本なし等）植物の生態、土壌分析に基づいた栽培講習を農業者へ行うことで、施肥設計の方法や環境負荷の少ない栽培方法を周知・実践する。

講習サイクルについては、3か月を1クールとして7月から3月までの間で2回行うことで、果樹生産者に参加しやすい講習を実施。

調達

また、植物の生態、土壌分析に基づいた栽培方法を確立し、実証期間は、3年間とし、慣行栽培ほ場との検証行い減化学肥料栽培の実証を行う。



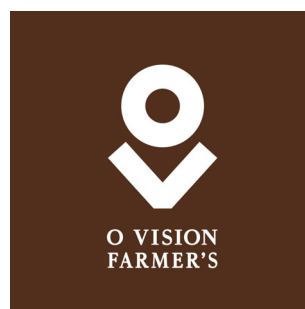
うきは市

構 成 員

うきは市、JAにじ、朝倉農林事務所久留米普及指導センター、農業者

品 目

かき、ぶどう、日本なし、ドラゴンフルーツ



←取組を行っている農地・圃地については、この名称をグーグルマップ上に掲載してもらい、取組の周知や利用拡大を図る。

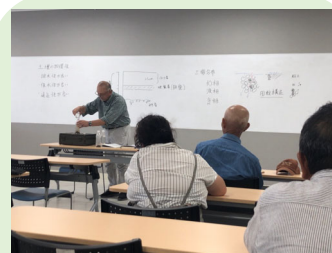
<organic vision farmer's>

有機農業や減農薬・減化学肥料の推進及び農産物をPRしていきたい想いからロゴを制作。ここでいうオーガニックとは、『健康的な生活を目指す生産者』や『環境に配慮した農法を行う農業者』を意味する。有機農業者等はもちろんのこと、有機農業を目指す農業者にも活用を促している。

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



地域資材を活用した有機質堆肥の研究及び生産状況



農業者に対しての講習会の様子

普及に向けた取組

- ①調達：うきは市、にじ農業協同組合、筑前あさくら農業協同組合及び株式会社 アグリガーデンスクール&アカデミーと共同で、有機栽培、減化学肥料栽培に適した堆肥の研究及び生産に向けた取組を行い果樹園地にて実証を行う。
- ②生産：外部講師を招き、植物の生態や環境負荷の少ない栽培講習及び土壌分析に基づいた施肥設計講習の取組を行う。

うきは市グリーン栽培検討協議会

（事務局：うきは市役所農林振興課農政係）

〒839-1393 うきは市吉井町新治316、TEL：0943-75-4975

問い合わせ先